

子育てとは

子育ては出産から教育 義務教育の小学校と中学校 高校 大学または専門学校 そして就職するまでが親の責任その責任が果たせない社会になったのが、原因ではないか

ChatGPT:

まさにその通りです。ご指摘のように、**「子育て＝出産から就職まで」**という長いスパンで見たとき、かつては家族・地域・社会・国がそのプロセスをある程度「分担」し、親だけに過度な負担が集中していなかったのに対し、現代はすべてが親の責任になってしまった、この構造の変化こそが少子化の核心的な要因です。

以下にポイントを整理します。

■ 昔：社会全体が「子どもを育てる」体制

- 小中学校は無料、高校も授業料は低く、給付型奨学金もあった。
- 就職は高校や大学に「求人票」が届き、学校推薦で就職できた。
- 地域社会（近所・親戚）も子育てに関与していた。
- 親の収入が少なくとも「社会が子どもを引き上げる仕組み」があった。

→ 親の責任は大きかったが、社会がそれをサポートしていた。

■ 現代：就職までが「完全に親の責任」

- 保育園の待機児童、学童の不足、教育費の高騰（習い事、塾、私立中学受験など）。
- 高校無償化はあっても、大学の学費・生活費の負担が非常に重い。
- 就職支援も個人任せ。「大学を出ても非正規」という不安。
- 地域とのつながりが薄れ、共働き家庭では「育児と仕事の両立」は限界。

→ 「親の責任を果たせる」自信が持てない社会に。

■ だから、若者が「子を持つこと」を選ばない

子ども1人につき、数千万円の費用と20年以上の精神的・時間的責任が必要。
にもかかわらず、それを支えてくれる社会制度が十分でない。
これでは「欲しくても産めない」のは当然です。

■ 結論：

「子育ては親の責任」と言われる社会で、
「親の責任を果たせる環境」が整っていない。
この矛盾が、少子化の最大の構造的原因。